

令和 7 年度 第 1 回 学校関係者委員会会議録

日時：令和 7 年 4 月 24 日（木） 17:00 ～18:00

場所：神戸看護専門学校 第一会議室（8 階）

司会：大西 書記：迫田

参加者：神戸市民間病院協会 ：会長 1 名 副会長 2 名

学校：学校長・事務部長・教務主任

議題

1. 令和 6 年度学校評価結果

令和 6 年度「学校自己点検評価結果」（別紙参照）について、学校長より全体の評価結果の概要について説明。

2. 学校からの報告内容

学校長より主に以下 3 項目の内容報告があった。

①看護師国家試験対策について

令和 4 年度までは看護師国家試験の合格率は全国平均を上回っていたが、昨年に引き続き全国平均を下回る結果であった。今回新卒者の全国平均 95.9%（昨年：93.2%）を下回り 91.8%（昨年 89.7%）であった。受験者 61 名に対し不合格者 5 名。（昨年 7 名不合格者）国家試験対策として、外部講師や業者による補習講義や、問題集を繰り返し解くこと、成績低迷者への補習講義、学校での学習を促すなど行った。不合格者は、普段より学習習慣や方法が身につけていない学生であったため、早期から状況を把握したうえで支援していく対策を行う必要がある。

②受験生の応募状況について

年々受験生が減少している。18 歳人口減少と大学志向であることはもちろんの事、将来の職業希望として看護師希望者が大きく減少していると思われる。社会人経験者の受験生も減少しており、その理由として考えられることは企業採用の増加によるものではないか。本校のみならず他校においても同様の状況。2022 年度入試と比較すると社会人入試受験者数は 2023 年度入試には半減、それ以降減少傾向である。受験者総数は前年度より 13.4%減。（前年度が 18.5%減）

医療現場の看護師不足に対応すべく社会人経験者を看護師として育成することは専門学校として大きな意義があると考えていたが、厳しい状況と言える。今後、社会において看護に興味を持てるような取組等が行われることや、学校独自に学校アピールをしていく取り組みが必要と考え、会員病院に学生募集のポスター設置を依頼し、

その効果は評価できないが今年度も依頼していく。

受験生確保に向けた取り組みとして、少しでも多くの生徒に学校を周知できるよう令和6年度は4月から毎月10月までおよび3月の土曜日に1回学校見学会を実施した。8月のオープンキャンパスを含め258名参加。内、21%が受験。参加者を受験につなげたい。

③就職状況について

設置主体である民間病院への就職率は、県内民間病院への就職者（実習病院含む）は91.8%（昨年88.7%）、神戸市内民間病院への就職者率70.5%（昨年51.6%）と良い結果と言える。国家試験の不合格者が多いと就職率も下がるため国家試験の合格率を上げることが就職率を上げることにもつながる。今後も就職に関しては学生に本校の趣旨について説明し民間病院への就職を推奨していく。

4. 学校関係者からの意見・総合的評価

受験生確保に関して

- ・会長より、受験確保に関しては、兵庫県内にとどまらず学校パンフレットなど遠方に送付するのもよい。都会を希望する若者もいる。東方面よりも西方面が良く、島根県・鳥取県・山口県・九州等に送付してみるのも一つの方法である。
- ・受験の募集要項に兵庫県民間病院協会で勤務経験がある者を対象とした枠を組み入れたが、病院からの推薦制度を取り入れてもよいのではないか。
- ・副会長より、年齢が多少高くとも意欲のある人もいるのではないか。そのような人々たちを入学させたらどうかとの意見があったが、今年度年齢の高い者も多く入学している旨伝えた。

今後の学生の就職先に関して

- ・急性期の病院が今後減少し回復・地域包括医療が増加する傾向。その場合看護師の募集人数が減り、就職先が減少するという状況になり得ること等の就職状況について動向の把握が今後必要である。

国家試験合格に向けて

- ・入学時からの成績が低迷のものを3年間で合格に導くよう指導が必要。

学校運営に関して

- ・学生確保など厳しい状況にあるが、現状維持できるよう取り組んでほしいという意見があった。